



コロナウイルスから問われていること

小久保 正

2020年1月に中国武漢で人に宿った新型コロナウイルスは、瞬く間に全世界に広がり、多くの人を思いがけない死に追いやった。国の違い、社会環境の違いを越えて、どの人も等しく死の脅威に晒されたので、人々は、立場の違いを越えて繋がり合い、助け合い、命を守るために一致協力することが期待された。

しかし、しばらくパンデミックの時を歩み来て私達が見たのは、一致と協力ではなく、分断と対立の激化と、それにより社会の片隅に追いやられ、顧みられることなく苦難に耐えている人達の姿であった。

アメリカミネソタ州で白人警官により圧殺された46歳の黒人男性は、その象徴であった。殺されたジョージ・フロイドさんは、二人の娘の父親だった。コロナ感染症の拡大により職を失い、自らもウイルス反応陽性の判定を受けた。食料品店でたばこを買おうととして使った20ドルが偽札だと通報され、かけつけた白人警官に取り押えられ、首を膝の下に8分間も押さえつけられ、ついに息絶えてしまった。

小さな法律違反でも、職務質問される黒人は白人の5~10倍、逮捕される黒人は白人の数倍に上ると言われる。経済情勢が悪くなると職を失うのは、まず不安定な条件で雇用されてきた黒人であり、感染症が広がると、感染して重症化しやすいのは貧しい環境に住む黒人である。コロナ感染症により亡くなった黒人の数は白人の2.4倍に上ると言われる。コロナ感染症の広がり、アメリカの社会に深く根を張ってきた人種差別を顕在化させ、増幅させた。

かつてマーティン・ルーサー・キング牧師が、人種差別に抗議する25万人の聴衆を前に、「私には夢がある、それはいつの日か、この国が立ち上がり、『すべての人間は平等に作られている』というこの国の信条を、真の意味で実現させるという夢である。私には夢がある。それはいつの日か、私の4人の幼い子どもたちが、肌の色によってではなく、人格そのものによって評価される国に住むという

夢である」と語ったのは1963年のことであった。それから何が変わったというのか。闇は深い。

折しも、なぜ闇がこんなに深いのかと問い続けて、つい最近その生涯を閉じた黒人神学者ジェームス・H・コーンの遺言ともいべき書が、彼のユニオン神学校における最終講義を聴いた日本の若き学徒により訳されて出版された(榎本空訳『誰にも言わないと言ったけれど』新教出版社2020年3月刊)。コーンは言う「聖書の中心課題は、虐げられている人々の解放である。それなのになぜ著名な神学者も主だった教会も、黒人の抑圧に目を向けないばかりか、暗黙のうちにそれに加担するのか、リンチの木からぶら下がるく十字架につけられた黒人の体の内にキリストを見ることができるようになるまでは、奴隷制と白人優越主義という血でまみれた遺産から自由になることは決してない」。

訳者は、経済情勢困難な中で連れ合いと二人の幼い子どもと共にアメリカに留まり、この書を日本へ届けた。コーンの問いかけは日本の私達への問いかけでもある。コロナ感染症の広がり、日本でも社会の中に深く根を張ってきた格差を顕在化させ、増幅させた。外出自粛要請と休業要請により、最初に食べる術を失い、寝る場所を追われたのは、不安定な条件により雇用されてきた非正規労働者だった。とりわけ被害が大きかったのは、労働力の不足を補うために開発途上国から来日した多数の外国人技能実習生と、30万人にも及ぶ外国人留学生だった。彼らは、日頃低賃金で厳しい環境下で働き、事業が縮小されると、不用とされ、収入源を断たれ、居場所を失い、路頭に迷っている。

紀元前600年頃バビロンに捕らえ移され、前途に希望を見出すことができず、絶望的な気持ちに陥っていたユダの民に向けて、エレミヤは次の神の言葉を取り次いだ。「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである」(『旧約聖書』エレミヤ書29章)。これは、私達への慰めである。この言葉に励まされて、もう一度立つべき場所を確認したいと思う。

✧ なんどきですか ✧

- ・中国政府による香港への人権抑圧を強める「香港国家安全維持法」が強行された。多くの香港市民は、反対の声を緩めない。かつて日本では「治安維持法」が成立され、暗黒の時代を経験している。自由がどんなに大切かを忘れてはならない。
- ・コロナウィルスのために、何カ月も経済活動がストップして、多くの人々が職場を失い、生活困窮に入っている。今こそ国を挙げて支える国力を見せてもらいたいものだ。 (by E.E.)

投稿 京都俳句きらら会

- ・水弾くタイヤの音や梅雨に入る 周豊
- ・鯉跳ねて水面の緑乱しけり 公女
- ・深山路に山紫陽花の色灯す 茶香
- ・雑踏に紛れて山梔子香り立つ 星児
- ・初採りのキュウリにひしおすすむ酒 海楽
- ・早苗らは雨にもめげず背筋立て 枯骨
- ・ToDo(トゥドゥー)リスト不要不急の4月尽 岳
- ・紫陽花や雫の光り雨上がり 虚舟

◇おさそい◇

★8月30日(日)～31日(月)

2020年度 修学院フォーラム「福祉」第1回

「宣教と当事者研究

— “精神障がいと教会” の経験から」

講師: 向谷地 生良(社会福祉法人浦河べてるの家理事)

★9月26日(土) 16:00～27日(日) 12:00

2020年度 開発教育セミナー第2回

「中東の今とこれからの日本

～紛争地のリアルから考える～

講師: 西谷 文和(フリージャーナリスト、イラクの子どもを救う会)

※予定に変更があります場合は、ウェブサイトでお知らせしますとともに、お申込の方には、メールなどでお知らせいたします。

♡ありがとうございました♡

関西セミナーハウス活動センターへの
賛助会費・寄付金

2020.5.1-5.31 順不同・敬称略

平林 喜博、李 善恵、橘 俣子、岡安 茂祐、松田 光代、
伏木 信次、浅田 涼子、陶村 世佳子、竹中 百合子、
織田 雪江、古賀 暢子、松本 嘉一、五十嵐 萬里子、
浅川 具美、真鍋 裕子、喜多村 やよい、佐藤 友紀、
株式会社ころ、間瀬 啓允、木下 壽子、殿村 元一、
鳥井 清司、鳥居 操

四季だより

つばめきたる
～玄鳥至～

関西セミナーハウス庭園担当 榎 廣光

つい先日ふらりと美山を訪れた。道の駅に入ろうとすると突然、頭上から「ジーディーディー!」、「チュビチュビチュビ!」などと賑やかな小鳥の鳴き声が聞こえてきた。思わず上を見上げると、店のシャッター収納ボックスの狭い隙間に、ツバメが5個も巣作りをしていた。親鳥がエサを啜って戻ってきたのである。店の入口の天井の片隅にはツバメの休息のために板きれが取付けてあるではないか。何ともほほえましい気配りだことか。人はやさしくツバメを見守り、ツバメもひと安心である。

「玄鳥至」東南アジアあたりで越冬していたツバメが再び飛来してくるという意味。玄鳥とはツバメの別名である。農耕民である日本人にとっても愛されてきた野鳥である。

関西セミナーハウスでも昨年からの姿が見られるようになり、今年は4羽のヒナが巣立った。昨年と同じ巣を利用したいたことから同じ親鳥かも知れない。半年以上間があるのに4000～5000kmも離れてよく忘れないものだ。

野生動物は一般に人を警戒するが、ツバメは逆に人をうまく利用している。卵やヒナを、カラスやヘビなどの天敵から守るため、人通りの多いところがかつ天敵から目につきにくいところを選ぶのである。人との共存共生がきわめて自然に成り立っている。万葉の時代からすでに、この関係が続いているようだ。縄文期から続いているかも。最近の調査では子育て率が減少しているとか。ツバメにとって良い子育て環境がいつまでも続くことを願う。

